



2021年6月28日

各位

会社名 旭松食品株式会社
 代表者名 代表取締役社長 木下 博隆
 (コード 2911 東証第2部)
 問合せ先 取締役経営管理部長 足立 恵
 (TEL. 06-6306-4121)

(訂正・数値データ訂正)

「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、2021年5月14日に公表いたしました、「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」について訂正がありましたので下記の通りお知らせいたします。また、数値データにも訂正がありましたので訂正後の数値データも送信します。なお、訂正箇所につきましては、下線 を付して表示しております。

1. 訂正の内容及び理由

「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の公表後、2022年3月期の連結業績予想、当期の財政状態の概況、キャッシュ・フローの状況、キャッシュ・フロー計算書の記載内容に誤りがあったことが判明したため、訂正するものです。

2. 訂正箇所

(1) 「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」サマリー情報

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

【訂正前】

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通 期	8,500	<u>3.4</u>	270	2.0	340	△12.6	250	5.9	137.53

【訂正後】

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通 期	8,500	<u>二</u>	270	2.0	340	△12.6	250	5.9	137.53

(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した業績予想となります。このため、売上高の対前期増減率は記載しておりません。

(2)「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」3ページ

1. 経営成績等の概況

- (1) 経営成績等の状況の概要
- ② 財政状態の状況

【訂正前】

当連結会計年度の負債合計は、前連結会計年度に比べ3億3百万円減少し26億3百万円(同10.4%減)となりました。これは、支払手形及び買掛金の減少3千7百万円や未払金の減少2千9百万円、返済に伴う長期借入金の減少1億9千7百万円、昨年度発生した品質関連事故に関する品質関連損失引当金の減少1千4百万円が主な要因です。

【訂正後】

当連結会計年度の負債合計は、前連結会計年度に比べ3億3百万円減少し26億3百万円(同10.4%減)となりました。これは、支払手形及び買掛金の減少3千7百万円や未払金の減少3千万円、返済に伴う長期借入金の減少1億9千7百万円、昨年度発生した品質関連事故に関する品質関連損失引当金の減少1千4百万円が主な要因です。

(3)「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」3ページ

1. 経営成績等の概況

- (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

【訂正前】

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動による現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の増加は、8億2千9百万円です。増減の主な内訳は、減少要因として退職給付制度移行未払金の減少で6千万円、賞与引当金の減少で2千2百万円、仕入債務の減少で3千6百万円であり、増加要因として税金等調整前当期純利益の計上2億9千5百万円、減価償却費5億2千6百万円です。

また、前連結会計年度に比べ資金の流入額が1億4千9百万円増加しています。増加の要因としましては、売上債権の増減差額で4千8百万円の減少や仕入債務の増減差額で3千5百万円の増加があったものの、投資有価証券評価損の増減差額で6千5百万円の増加や未払金の増減差額で6千3百万円の増加、未払消費税の増減差額で5千2百万円増加などがあったことなどによるものです。

【訂正後】

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動による現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の増加は、8億2千9百万円です。増減の主な内訳は、減少要因として退職給付制度移行未払金の減少で6千万円、賞与引当金の減少で2千2百万円、仕入債務の減少で3千6百万円であり、増加要因として税金等調整前当期純利益の計上2億9千5百万円、減価償却費5億3千1百万円です。

また、前連結会計年度に比べ資金の流入額が1億4千9百万円増加しています。増加の要因としましては、売上債権の増減差額で4千8百万円の減少や仕入債務の増減差額で3千5百万円の減少があったものの、投資有価証券評価損の増減差額で6千5百万円の増加や未払金の増減差額で6千3百万円の増加、未払消費税の増減差額で5千2百万円増加などがあったことなどによるものです。

(4)「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」11 ページ

3. 連結財務諸表及び主な注記

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

【訂正前】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
(中略)		
減価償却費	543,273	526,306
(中略)		
その他	△54,474	1,104
小計	704,369	793,125
(中略)		
営業活動によるキャッシュ・フロー	679,986	829,259
投資活動によるキャッシュ・フロー		
(中略)		
貸付けによる支出	△1,475	300
(中略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△678,892	△691,382

【訂正後】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
(中略)		
減価償却費	543,273	531,394
(中略)		
その他	△54,474	△3,982
小計	704,369	793,125
(中略)		
営業活動によるキャッシュ・フロー	679,986	829,259
投資活動によるキャッシュ・フロー		
(中略)		
貸付けによる支出	△1,475	-
貸付金の回収による収入	-	300
(中略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△678,892	△691,382

以 上